



阿武隈川の河川敷を グライダー滑空場に 実現目指し

角田でシンポ

角田市の阿武隈川河川敷をグライダー滑空場として活用する構想を打ち出して

講演会とパネルディスカッションを行った「写真」。講演会では、国土交通省東北地方整備局仙台台工務所の島貫徹副所長が河川空間の有効活用について説明。グライダー滑空場の先進事例を紹介し、「(角田の構想を)大変興味深く思っている。できる限りの支援を考えたい」と話した。

続いて、県航空協会、商工会青年部、農協青年部のメンバーらと佐藤清吉市長を交え、今後の課題についてパネル討論を行った。「航空公園としての整備も可能だ」「街づくりの中心になる」と訴えるパネリストの言葉を受け、佐藤市長は「市の財政は厳しいが、国土交通省などと相談しながら整備していきたい」と、実現に前向きな姿勢を見せた。